

スカウト おおいた

第48号

2017年 6月10日 発行

日本ボーイスカウト大分県連盟

編集 県連総務委員会

「活動的で自立したスカウトを育てよう！」

公益社団法人 日本ボーイスカウト大分県連盟
コミッショナー 真田康広

三指

日頃よりボーイスカウト大分県連盟の活動に対しましてご支援、ご協力を賜り心から感謝申し上げます。

日本連盟が平成 34(2022)年に創立 100 周年を迎えるにあたって長中期計画を策定しています。そして、スカウト運動の根幹である青少年の育成が平成 29 年度の事業スローガンとなっています。「活動的で自立したスカウトを育てよう!」、とりわけ『災害にもそなえるスカウト』を目指したいと存じます。

重点施策は次のとおりです。

- 1) 社会から評価されるスカウトの育成
- 2) 隊・団指導者の充実
- 3) 会員の確保
- 4) 新ユニフォームへの円滑な移行
- 5) セーフ・フロム・ハーム等スカウト運動の社会的信頼の向上

まだ記憶に新しいことかと思えます。昨年の4月14・16日に起きた熊本・大分地震に対する取り組みでは、各団における支援募金活動をはじめ、4月下旬に熊本県菊陽町に立ち上がったボーイスカウト日本連盟災害ボランティア熊本活動基地において、九州各県はもとより日本中から、指導者やスカウトが集結しました。大分県連盟からも第一段として4月30日からの指導者派遣や、8月20~21日のバスをチャーターしてのボーイ・ベンチャー・ローバースカウト、指導者による派遣隊を含む8月末までの第三段まで、4か月間に亘り続けられました。その間、基地関係者の配慮等により、益城町での土のう作りなどの災害ボランティア活動の体験や、被災地の視察研修をとおして被害の実態を現地で直視し、災害に際して自分たちに何ができるか、何をすべきか、「そなえよつねに」を強く心に刻むことができたものと思われま。

ニュース報道等で南海トラフ巨大地震が将来起きる可能性が高いことが伝えられています。その確率は30年以内では約70%ですが、10年以内でも20%前後と予想される身近な出来事です。災害時の対応については常に意識を高く持つ必要があります。

スカウトのモットーである「そなえよつねに」で、日頃からスカウト技能やスカウト精神を磨いていかなければなりません。また「全国防災キャラバン」や諸活動を通じて日本連盟や地域との連携を積極的に図って行きたいと存じます。

この夏、県連盟野営大会を大分市高尾山自然公園を会場として開催します。テーマは『スカウト技能に磨きをかけ、防災活動・対策を考える。』～み・じ・かな自然、そして災害。72時間を生き抜け!～。南海トラフ巨大地震などの大災害発生時から、物資が届けられあるいは救出されるまでに少なくとも72時間はかかることを想定し、自分達だけの力でなんとか生き延びる実践の場、その事前準備の機会として望んで欲しいです。

もとよりスカウト運動の目的は、「より良き社会人」を目指して青少年の発達に貢献することと同時に、『Creating a Better World (より良い社会を作る)』ことが世界共通の展望です。良き社会人とは、一言に“生きる力”、“豊かな心”などの自立した一人の人間としての資質や能力に加えて、社会を築き力強く生きて行く、言わば“人間力”のある大人と理解しています。我々は、より多くの方々に参加を呼びかけ、皆様と共にひとりでも多く活動的で自立したスカウト、社会から評価されるスカウトを育てて行くよう努めて実践活動に取り組んで参ります。

おわりに、スカウト運動において『団』はスカウトへのサービスの最も大切な組織です。今後もコミッショナーグループとして出来る限り団訪問をさせていただき、団と共に成長そして発展していきたく存じます。把手共行しボーイスカウト運動の推進に取り組んで行きましょう!



各団活動

中津第8団

2月の集会は宇佐市のアクトファームでいちご狩りと宇佐神宮へ。色んな種類の美味しいいちごを次々と食べ比べ、お腹がいっぱいになった所で宇佐神宮へ移動し「スカウトが増えますように」と、お願いをしました。



杵築第1団

ボーイスカウト隊に1名上進しました。また、6月ハイキングに向けて、地図とコンパスの訓練をしました。



別府第9団

4月8日に上進入隊式を行いました。ボーイ隊はカブ隊から2名が上進し、ビーバー隊は4名の入隊となりました。

厳かな光の中で誓うスカウトの姿が頼もしく、全員

で記念撮影を行い笑顔の41期がスタートしました。



由布第2団

高校受験終了。久しぶりにベンチャーが揃いました。全員が希望の進路に進み、7名での新たなスタートです。



大分第1団

森の中をツワブキの香りを嗅いでみたり、トカゲの卵を発見してみたりと自然の中でいっぱい遊びました。

工作ではスマートネスなスカウトを目指すため、チーフや制帽を飾れるボード作りをしました！

これで、忘れ物がきつとなくなるね！？



大分第2団

「凡事徹底（ぼんじてってい）」当たり前に行えることを、他の人には真似できないほど徹底的に実践する。

大分2回カブ隊は、全てのことを最初から実践するのは難しいので、まずは「集散法」から取り組んでいます。カブでしか体験できないことを大切にします。



大分第5団

3月に庄野原佐野線、宗麟大橋床版工完成記念イベントにビーバー隊が参加しました。手形で桜の花びらをつくり、その桜の木の写真が橋の一部になる。故郷に後世まで残る思い出として語る種ができました。



2月に九重森林公園スキー場にカブ隊、ビーバー隊合同スキー体験。はじめてスキー板に乗るスカウトの顔は怖がっていましたが、滑って転んでもすぐに立ち上がり、頑張っ滑れるようになり、銀世界の風景を感じながら冬のスポーツを楽しみました。



大分第9団



とり年、大きく羽を広げ元気に神社の境内で遊ぶことをお祈りしました。



今日も、スカウトの歓声が響いています。

津久見第1団

津久見第1団の春休み恒例の企画「楽しいハイキング」。今年度は、「黒川・久住コース」でした。

あいにくの雨・霧の中のスタートとなりましたが、スカウトは元気いっぱい！途中、八丁原地熱発電所を見学して、温泉県—おおいたの自然エネルギーのパワーを感じました。

夕食は、自分たちで作ったカレーとこの時期にしか味わえないシイタケのバターソテーの差し入れに大満足でした。



充実した2日間にスカウトの成長を感じました。

第2回 全国防災キャラバン

「熊本・大分地震」の発生から4月14日で1年を迎えた。一連の地震は熊本県に甚大な被害を与え、大分県にも深い爪痕を残した。

地域の未来を担う子ども達とご家族を対象とし、万が一の有事の際に役立つ「防災」に関する知識やスキルを体験を通じて学んでいただくことを目的に、4月8日に熊本県連においてキックオフイベントを開催して「全国防災キャラバン」を今年度もスタートさせた。



約150名の方々に各コーナーを体験して頂き、ボーイスカウト紹介コーナーでは約10名の方よりの入隊相談も受け付けた。

また、九州・沖縄ブロック共通プログラムのメッセージコーナーでは、「さくらの花メッセージ」をたくさん寄せて頂き、さくらの木を満開にして頂きました。

今後発生が予想される災害に備えて、とても有効な行事となりました。



大分県連盟でも、4月16日（日）にイオンモール三光ショッピングセンターにおいて

- ① “もしも”に備える防災アイテム持ち出しゲーム
- ② 1本で役立つ防災ロープワーク
- ③ ビニール袋で簡単応急救護、非常時用工作
- ④ 防災キャラバンアンケート、WAONNポイント
- ⑤ 九州・沖縄ブロック共通プログラム
- ⑥ ボーイスカウト紹介コーナーのプログラム

で開催した。



県連盟今後の予定

- | | |
|--------|------------------------|
| 6月11日 | 大分県連盟総会
指導者研修会（講演会） |
| 6月25日 | ボーイスカウト講習会（津久見市） |
| 8月2～6日 | 大分県野営大会 |
| 8月19日 | 指導者研修会（楽しいキャンプ） |
| 8月20日 | 指導者研修会（救急法講習会 中津市） |
| 9月 3日 | 県スカウトフォーラム（大分市） |
| 9月10日 | 第2回理事会 |
| 9月18日 | スカウトの日（カントリー大作戦） |